

平成 26 年度第一期第 2 回（一社）日本生物物理学会理事会議事録（抜粋）

日時：2014 年 4 月 5 日（土）13：00～17：00

場所：キャンパスプラザ京都 2 階 第 2 会議室

出席者：理事総数 17 名 出席理事 13 名（代表理事を含む。）

代表理事（会長）	七田 芳則	理事（副会長）	有坂 文雄
理事（副会長）	船津 高志	理事	石森 浩一郎
理事	伊東 大輔	理事	今元 泰
理事	金城 政孝	理事	須藤 雄気
理事	高橋 聡	理事	永井 健治
理事	根岸 瑠美	理事	林 久美子
理事	山口 真理子		

監事総数 2 名 出席監事 2 名

監事	片岡 幹雄
監事	難波 啓一

オブザーバー：

会誌編集委員長 原田 慶恵

BIOPHYSICS 編集委員長 石渡 信一

ホームページ編集委員長 由良 敬

陪席者：

学会本部事務局 垣内 香里

議長：代表理事（会長） 七田 芳則

議事録作成者： 理事 伊東 大輔

理事 根岸 瑠美

**報告および審議事項：**

**報告事項：**

1. 平成 26 年度年会準備状況（石森・金城）：報 1
2. 平成 27 年度年会準備状況（七田）：報 2
3. 平成 28 年度年会準備状況（七田）：報 3
4. 確定申告について（七田）：報 4
5. 出版委員会報告（船津）：報 5
6. 第 3 回 BIOPHYSICS 論文賞選考委員会報告（七田）：報 6
7. 男女共同参画・若手支援委員会報告（有坂）：報 7
8. 男女共同参画学協会連絡会報告（有坂）：報 8
9. 生物科学学会連合連絡会報告（有坂）：報 9
10. 広告について（永井・石森）：報 10

11. 海外会員の送料変更について（須藤・今元）：報 11
12. 学会員への啓蒙グッズの提供について（七田）：報 12
13. 日本学術会議生物物理学分科会報告（難波）：報 13
14. IUPAB・ABA 関連事項（永井・金城）：報 14
15. 賞・助成金推薦委員会報告（船津）：報 15
16. 支部報告（支部長代理）：報 16
17. 文科省一家に 1 枚ポスター製作報告（林）：報 17

#### 審議事項：

1. 平成 26 年度第二期事業計画（案）（七田）：議 1
2. 平成 26 年度第二期予算（案）（高橋）：議 2
3. 平成 27・28 年度会長候補者推薦状況報告および選出について（七田）：議 3
4. 平成 27・28 年度代議員選挙および会長候補意向聴取選挙について（七田）：議 4
5. 選挙システム報告とウェブシステム WG の発足について（須藤・今元・七田）：議 5
6. 第 52 回年会総会ワークショップについて（須藤）：議 6
7. ロゴマークについて（林）：議 7
8. 若手夏の学校援助金について（根岸・伊東）：当日配布
9. お茶の水女子大学の理系女子中高生教育事業への協力について（七田・由良）：資料なし
10. IUPAB・国際交流について（永井）：当日配布

#### 議事の経過の要領およびその結果：

理事会の審議に先立ち、会長より、定足数を満たしており、定款第六章第三十二条の規定により理事会が成立していることが報告された。会長が議長に就き、開会を宣言し審議に入った。

#### 報告事項：

1. 平成 26 年度年会準備状況（石森・金城）：報 1

石森理事・金城理事から平成 26 年度札幌年会準備状況についての報告があった。4 月下旬に郵送予定の年会案内最終版が配布され、確認を行った。続いて会計について、予想通りに進めば黒字になる見込みである事が報告された。しかし、予稿集アプリの制作費を入れると赤字になるという事であった。アプリの導入について議論し、理事会でアプリを導入する事を承認した。ランチョンセミナーに関して、現在 9 社確定しているが、まだ空いている枠があるので、可能性のある企業があれば紹介・連絡して頂ける様アナウンスされた。展示・広告に関しても、今のところ出足が悪く、同様に紹介して頂ける様アナウンスされた。プログラム・予算案等は理事会で確認し、指摘等あれば早めに実行委員会に連絡する。また、日本顕微鏡学会員のシンポジウム演者も生物物理学会員と同様に、参加費・懇親会費は演者が支払うという事を確認した。

2. 平成 27 年度年会準備状況（七田）：報 2

安藤年会実行委員長に代わって七田会長から、平成 27 年度金沢年会の準備状況について報告があった。実行委員が決まり、開催に向けて動き始めている。日程が確定し、2015 年 9 月 13 日～15 日に開催される。会場は金沢大学理工学研究域・自然科学棟本館に決まり、エー・イー企画のバックアップのもとで準備を進めている。大学での開催のため大きい会場が少なく、シンポジウムを減らし、各分野の分科会や一般口頭発表を多くする方針である。夏休み期間中の実施になるため、角間キャンパスへのバスが少なく、増便・臨時便の手配を予定している。

### 3. 平成 28 年度年会準備状況（七田）：報 3

豊島年会実行委員長に代わって七田会長から、平成 28 年度年会の準備状況について報告があった。現在会場・時期について検討中である。つくば国際会議場での開催を検討しており、11 月 25 日～27 日の期間で日程を調整している。

### 4. 確定申告について（七田）：報 4

七田会長より、法人化前の日本生物物理学会の平成 25 年の確定申告が完了したとの報告があった。収益事業収入が約 940 万円、対応経費が 2060 万円で 1000 万円強の赤字となったため、法人府民税 2 万円・市民税 5 万円の計 7 万円を 2 月 26 日付けで納付した事が報告された。

### 5. 出版委員会報告（船津）：報 5

船津出版委員長から出版委員会の報告について、それぞれの担当の委員長から報告するようアナウンスされた。

まずは原田会誌編集委員長から、会誌編集委員会の報告があった。邦文誌のオンデマンド印刷版について 1 号までは企業広告を載せていたが、2 号以降は企業広告を載せない事になった事が報告された。次に、邦文誌電子ジャーナル版における企業広告の配置について提案があった。現在邦文誌電子ジャーナル PDF 版には企業広告がページの後ろ側に載っているが、企業 PR ページも含めてページ前部に配置する事が提案された。これについて理事会で議論し、審議の結果、企業広告はページ前部に配置する事が承認された。具体的な挿入箇所については、今後出版委員会で検討する。広告ページの企業の並び順に関しては、エー・イー企画がローテーションを組んで配置する事になっている。

続いて、石渡 BIOPHYSICS 編集委員長から BIOPHYSICS 編集委員会の報告があった。

1) BIOPHYSICS 誌への投稿について、今年は現時点で 4 報の投稿しかなく、理事には引き続きオリジナル原稿を投稿するようアナウンスされた。2) BIOPHYSICS 誌に掲載する論文の abstract を魅力的にしたい、プロの science writer に依頼し校正していただき、before-after でこのような形に変わるという例文を示したいという提案があった。校正に係る費用を学会で負担する事を高橋経理担当理事に確認した上で、理事会で承認した。3) J-STAGE 審査システム利用規約の改訂に伴う経費発生について、生物物理学会では 15 万円を自己負担するようになる事が報告された。費用負担に関しては理事会で確認した。また、J-STAGE では年間最低 50 報の投稿が要求されているが、現在はこれに達しておらず、今後投稿審査システムを利用できなくなる可能性があるため（現在は J-STAGE 側から了承いただいている）、再度理事には BIOPHYSICS 誌に投稿または投稿を呼びかけるようアナ

ウンスされた。4) BIOPHYSICS 誌の Editor-in-Charge として、現在地域性を考慮しアジア・オセアニアから 9 名を選出しているが、Impact factor を獲得する上で、国際性を考えて high impact researcher を入れる事を検討しており、外国の機関に所属する適切な研究者がいれば推薦してほしいという連絡があった。Editor-in-Charge の研究者は BIOPHYSICS 誌の editor として積極的に活動してくれる方が望ましいとの事であった。その他、BIOPHYSICS 誌でもグラフィックアブストラクトを取り入れてはどうかという提案があり、編集委員会で検討する事となった。

由良 HP 編集委員長から HP 編集委員会の報告があった。前回の理事会で承認を得た事項について、1) 欧文誌との連携 (Editor's Summary の一覧を作成)、2) ホームページに広告記事ページを作成 (欧文誌出版との連携)、3) ホームページの国際化 (IUPAB 関係)、が無事完了したとの報告があった。

#### 6. 第 3 回 BIOPHYSICS 論文賞選考委員会報告 (七田) : 報 6

七田会長から、第 3 回 BIOPHYSICS 誌論文賞の選考状況について報告があった。3 月 31 日が締切であったが、締切日時点での推薦は 4 件であったため、4 月 10 日まで延長した。その後 1 件の推薦があり、計 5 件の推薦があった。昨年推薦分とあわせて推薦件数は 11 件である。4 月 10 日をもって推薦は締切り、今年の選考を行う予定である。

#### 7. 男女共同参画・若手支援委員会報告 (有坂) : 報 7

有坂男女共同参画・若手支援委員長から、前回の委員会での審議の結果を受けて、若手奨励賞の応募フォームを改訂したことの報告があった。応募フォームに「演題における応募者の貢献」、「他賞への応募状況および過去の受賞歴」の 2 項目を追加した。

次に、札幌年会中の男女共同・若手シンポジウムの準備状況について報告があった。今年は趣向を変えて、少人数によるグループディスカッション形式で行う事を検討していた。年会実行委員会のご尽力もあり、10 名ずつの小テーブル 10 席からなる会場の形式で進めている。グループディスカッションの前の講演者を人選中であるとの報告があった。

#### 8. 男女共同参画学協会連絡会報告 (有坂) : 報 8

有坂男女共同参画・若手支援委員長から、3 月 19 日に行われた男女共同参画学協会連絡会に根岸理事が代理で参加した事が報告された。第 12 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが 2014 年 10 月 4 日に東大駒場キャンパスで開催される予定。また、昨年実施した大規模アンケートの結果をもとに要望書を作成し、各省庁に提出する予定である。生物物理学会は要望書に賛同意見を提出済みである。

#### 9. 生物科学学会連合連絡会報告 (有坂) : 報 9

有坂生科連担当理事から、3 月 13 日に開催された日本学術会議主催学術フォーラムと 3 月 27 日生物科学学会連合第 1 回ポストク問題検討委員会の参加報告があった。生物物理学会として提言する事があれば、有坂担当理事まで連絡いただきたいとの事であった。

#### 10. 広告について (永井・石森) : 報 10

永井・石森広告担当理事から、広告収入の状況について報告があった。一旦下げ止まっ

たかに見えた広告収入は 2013 年減少している。生物物理学会員全員で年間契約または単発契約の広告を取るよう努力する必要がある。理事には広告掲載申込書をプリントアウトしておき、研究室等に来られた企業の方々へ積極的に配布するようアナウンスされた。ヒューマンフロンティアサイエンスプログラム、プロテインデータベース等の公的機関の広告が獲得できないかという意見が出た。また、若手主催の夏の学校に広告を出している企業とあまり重なっていないため、こちらの情報についても永井担当理事へ連絡する事となった。

#### 11. 海外会員の送料変更について（須藤・今元）：報 11

須藤・今元庶務担当理事から、海外会員の送料変更について報告があった。海外会員への郵送はすべて航空便とし、送料 1,000 円を別途請求することにした。冊子体希望者の送料は 5,000 円（通常の郵便物送料分 1,000 円、冊子送料分 4,000 円）とする。

#### 12. 学会員への啓蒙グッズの提供について（七田）：報 12

林・政池啓蒙担当理事に代わって七田会長から、学会員への啓蒙グッズの提供について報告があった。クリアファイル・パンフレットを作成し、これまでの試供状況として、東京大学・野地研究室の田畑氏からの依頼で、研究室を訪問する高校生に対しそれぞれ 15 部提供し、非常に好評であった。学会として、今後このようなグッズを販売する事で収入を得るかどうか審議した。啓蒙活動にあたり、グッズ等を販売するのか配布するののかについてはもう少し審議する必要があるため、担当理事を中心に引き続き検討する事となった。

#### 13. 日本学術会議生物物理学分科会報告（難波）：報 13

日本学術会議会員の難波氏から、2 月 10 日に行われた基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会について報告があった。昨年提案した「統合バイオイメージング研究所設立」は現在提言をまとめている。また、平成 26 年学術フォーラム「生命情報ビッグデータ時代における新しい生物学」の提案について、諏訪氏・野地氏を中心に進めているとの報告があった。

#### 14. IUPAB・ABA 関連事項（永井・金城）：報 14

永井・金城国際交流担当理事から、IUPAB 関連について報告があった。第 18 回 IUPAB 国際大会@ブリスベンについて、プログラムが確定したとの報告があった。次に、オーストラリア生物物理学会(BSA)と日本生物物理学会との間で交流シンポジウムの提案について報告があった。BSA からの交流シンポジウム提案に対しては了承しているが、具体的な話はそれ以降進んでいないとの事であった。

#### 15. 賞・助成金推薦委員会報告（船津）：報 15

船津賞・助成金推薦委員長から、山田研究援助と江崎玲於奈賞の推薦状況について報告があった。山田科学振興財団 2014 年度研究援助候補者の推薦について、3 名を候補者として推薦した。また、第 11 回江崎玲於奈賞受賞候補者の推薦について、2 名を候補者として推薦した。個人的に推薦するものとして、ヒューマンフロンティアサイエンスプログラムの Nakasone Award について HP にアップし、金城理事・石渡氏の名前で会員全員にメー

ル配信したとの報告があった。

#### 16. 支部報告（支部長代理）：報 16

支部活動・会計について各支部長から報告があった。

関東支部長の代理として由良氏から、関東支部の活動・会計報告があった。3月4日・5日に支部会を開催し、会則を設定し任意団体として動き出す事を決定した。学会からの補助金を活用し、web作成や関東支部の若手奨励賞の設立等を進めている。

東北支部長の代理として高橋理事から、東北支部の活動・会計報告があった。昨年12月に支部会を開催した。

中部支部長、中国四国支部長、九州支部長の代理として七田会長から各支部の活動・会計報告があった。

#### 17. 文科省一家に1枚ポスター製作報告（林）：報 17

林理事から、一家に1枚ポスターの製作について報告があった。文科省「一家に1枚ポスター」について生物物理学会が企画・監修をする事になり、林理事を中心としたワーキンググループで製作に当たり、完成したとの報告があった。文科省から3000部が無償で入手できる。文科省のHPでは動くタンパクのGIFを見る事ができ、A3のPDF版も入手可能であるという事であった。現在学会HPにページへのリンクが貼ってある。理事およびワーキンググループにはA1版を1部、A2版を10部配布する事となった。

#### 議題：

##### 1. 平成26年度第二期事業計画（案）（七田）：議 1

平成26年5月から開始する第二期の事業計画案について、七田会長から報告があった。今期は事業概要として年会が入っている。第一期からの変更点として、「関連学術団体との連携及び協力（定款第四条第5号）」に、日本物理学会に加えて日本顕微鏡学会との連携強化（会員の参加・発表の奨励等）が追記されている事が報告された。

##### 2. 平成26年度第二期予算（案）（高橋）：議 2

高橋経理担当理事から、第二期予算案について説明があった。年会予算案の変更に伴い一部金額が変更となり、こちらに関しては予算案に反映されている。荷造運搬費に含まれていた学会誌発送費は、事業費に当たるという事で科目を新設した。荷造運搬費には、4月下旬に送付される年会案内や会費請求書等の送料が含まれる。法人税は、事業の遂行や管理以外にかかる費用ということで経常外費用に計上場所を移した。事務費に関して、クレジットカード決済の準備のための費用として40万と高くなっている。報12における議論も含めて、各担当理事から何か要望がある場合は予算確定前に経理担当理事に伝えて欲しいとのアナウンスがあった。逆に、経理担当から何か要望がないか訪ねる機会を設ける事も検討していくという連絡もあった。また、予算についてはこの額を超えてはいけないという決まりはないので、普及啓蒙等でどうしても必要が生じた場合は請求しても構わないが、その場合は必ず報告をするようアナウンスされた。その他、法人化後は予備費が削減された事、HP準備のための積立金を廃止した事が報告された。第一期第二期あわせて400万円ほどの黒字予算だが、これは上記の積立金を廃止した影響も大きく、HPリニューアル

のある年は赤字になる事が予想されるという事であった。

3. 平成 27・28 年度会長候補者推薦状況報告および選出について (七田) : 議 3

高田選挙管理委員長に代わって七田会長から、平成 27・28 年度会長候補者推薦状況について報告があった。2 月 26 日～3 月 10 日正午にかけて、代議員を対象とした会長候補者推薦を実施した。推薦結果 9 位までの 13 名について、理事による投票 (3 名連記) を行った結果、会長候補 3 名、補欠 2 名が選出された。七田会長は、上位の候補者から順番に連絡し 3 名の候補を最終的に決定する。

4. 平成 27・28 年度代議員選挙および会長候補意向聴取選挙について (七田) : 議 4

高田選挙管理委員長に代わって七田会長から、平成 27・28 年度代議員選挙および会長候補意向聴取選挙について、今後の選挙スケジュールについて提案があった。代議員候補者推薦は 4 月 9 日～5 月 9 日、会長候補意向聴取選挙・代議員選挙は 5 月 21 日～6 月 20 日で実施予定である。いずれも中西印刷の投票システムを使用し選挙を行う。定款第五条 4 により、代議員選挙には理事は投票できない事を確認した。以上について、理事会で承認した。

5. 選挙システム報告とウェブシステム WG の発足について (須藤・今元・七田) : 議 5

須藤・今元庶務担当理事から、選挙システムの報告があった。平成 27・28 年度会長候補者推薦を中西印刷で製作した選挙システムを使用し実施した。選挙システムに幾つか問題があり実施が遅れたが、2 月 26 日～3 月 10 日 12 時までの間選挙を実施した。問題としては、1) システム不調により会員システム e-naf にアクセスできない、会員情報がダウンロードできないという事象が発生したこと、2) 被選挙人 (候補者) の登録に問題が生じたこと、の 2 点であった。これらの問題を解消し無事に選挙を終える事ができたとの報告があった。

次に、七田会長からウェブシステム WG の設置についての提案があった。由良氏を委員長とし、須藤理事、石島氏、安永氏、相沢氏、垣内事務局職員の 6 名でウェブシステム WG を立ち上げる事に関して議論することとなった。審議の結果、ウェブシステム WG の設置について理事会で承認した。

6. 第 52 回年会総会ワークショップについて (須藤) : 議 6

須藤理事から、第 52 回年会総会ワークショップについて提案があった。須藤理事を中心とした総会 WG (須藤理事、今元理事、瀧ノ上氏、永井理事) が設置され、現在「生物物理が拓く未来社会」という仮タイトルでワークショップを企画している。WG としては、男女共同参画・若手シンポジウムと同等の扱いにし、非会員講演者の場合、参加費・懇親会費は学会負担とし、加えて旅費を支給していただきたいという連絡があった。年会時の総会は 1 時間 20 分あり、最初の 30 分は学会から会員への報告の時間として使い、残りの 50 分でワークショップを行う事を予定している。現時点までの提案について、理事会で承認した。

7. ロゴマークについて (林) : 議 7

林理事から、学会ロゴマーク選考状況について報告があった。デザイナーの方に相談し、配色を 2 種類にまで絞り込んだ。理事会での多数決の結果、オレンジ・イエロー・シアンの配色のもの（議 7 の 1, 2）に決定した。1 と 2 は状況に応じて使い分ける。また、54 件の応募中最終候補に残った 3 つのデザインの考案者に、図書カード（5 千円分）を贈呈してはどうかという意見があり、理事会で承認された。これらのデザインについて、今後啓蒙活動等で使えるのであれば使いたいという事になった。

#### 8. 若手夏の学校援助金について（根岸・伊東）：当日配布

根岸・伊東若手担当理事から、若手の会夏の学校への資金援助について提案があった。生物物理若手の会は毎年「夏の学校」を開催しており、この開催に当たり生物物理学会より 20 万円の補助金を支援いただけないかという提案があった。審議の結果、20 万を補助金として支援する事を理事会で承認した。

#### 9. お茶の水女子大学の理系女子中高生教育事業への協力について（七田・由良）：資料なし

お茶の水女子大学の理系女子中高生教育事業への協力について、由良氏より連絡があった。お茶の水女子大学理学部の理系女子中高生教育事業は文科省、JST 経由で公募しているグローバルサイエンスキャンプに申請中の事業で、各県の教育委員会を巻き込んで進めている。事業内容は、高校生に英語論文を書かせて、お茶の水女子大で作成した科学雑誌に投稿させる、また審査するというもの。さらに、計画では、著しい成果を挙げた学生は海外留学や、お茶の水女子大学への入学などを支援する。この事業を進めるにあたり、レフェリーの母体を準備するため、生物学分野で幅広い分野をカバーしている生物物理学会に協力（レフェリーの推薦）を要請したい。この事業は現在申請中なので、さしあたり、申請書に「生物物理学会バックアップのもと、論文の審査体制をつくる」と明記したい旨が由良氏から提案された。理事会で審議した結果、協力することが承認された。

#### 10. IUPAB・国際交流について（永井）：当日配布

永井外交・国際交流担当理事から、IUPAB・国際交流について提案があった。2020 年に開催予定である IUPAB 国際大会を日本に誘致しよう、ということで進行している。しかし、開催地決定は今夏のブリスベン大会であるにも関わらず、ロビー活動など積極的な誘致につながる活動を全くしていないのが現状である。そこで、2023 年の誘致に目指して準備を進めることにした。国際会議誘致のノウハウを教えてくれる JNTO（日本政府観光局）のセミナーに、3 月 24 日、永井理事が出席した。JNTO は誘致ノウハウの提供だけでなく、金銭的な支援も行っている（誘致に失敗しても返金義務は発生しない）。支援内容は、関係省庁大臣・総理大臣からの会議招請状の発行、開催地決定権を有するキーパーソンの日本視察招請支援（航空機代、宿泊費、食費、最大 10 名）、在外交官の協力、提案書作成のコンサルティング、アンバサダーのようなロビー活動の支援など。JNTO は 2015 年、2021 年に開催される 5000 人規模の国際会議を誘致した実績を持つ。現在、第 18 回 IUPAB 国際大会対応ワーキンググループは七田会長、難波氏、柳田氏、石渡氏、曾我部氏、片岡氏、原田氏、瀬藤氏、野地氏、永井理事で進めている。この中からロビー活動メンバー（アンバサダー）を選出する方針。審議の結果、2020 年度は根回し、下準備にとどめ、2023 年度の誘致を目指して本格的に活動を進めることが承認された。



**連絡事項：**

1. 次回運営委員会日程について（七田）

2014年6月28日（土）13時～ 場所：キャンパスプラザ京都  
（11時より出版委員会、男女共同参画・若手支援委員会開催）

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は17:00に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成26年5月26日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成26年度第一期第2回理事会

代表理事 七田 芳 則（印）

監事 片岡 幹 雄（印）

監事 難波 啓 一（印）